

セットアップのポイント:4 - 組立て後のポイント

組み立て後にチェックした方がよいポイントをご紹介します。

再度駆動範囲の確認を

前回、セットアップのポイント:3でも書いたことの繰り返しになりますが、粗動マニピュレーター(電動タイプ/手動タイプ)が駆動範囲の中心で使用されているかをチェックして頂くだけで、トラブルの対策になります。

微動マイクロマニピュレーター(液圧タイプ)につきましてもなるべく駆動範囲の中心(目盛り【5】)でご使用頂く事をお勧め致します。

また、駆動範囲内にぶつかりそうなものがあるときには実際に操作を始める前に安全な範囲を確認しておいてください。

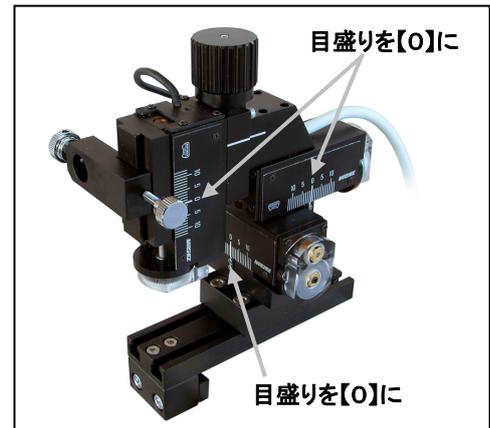
◆◆電動タイプにおける注意点◆◆

《よくあるトラブルの内容》

電動タイプ(MM-89等)については、駆動範囲最大まで駆動させた場合に、リミット機能/埃/グリスの劣化などの原因でネジがかんでしまい、動かなくなるケースがあります。このようなトラブルが起きた場合は修理が必要です。

《トラブルが起きないためには…》

駆動部についている目盛りを参考にしながら、なるべく目盛り【0】を中心にしながら操作するように心がけていただく事で、トラブルを回避する事ができます。



◆◆手動タイプにおける注意点◆◆

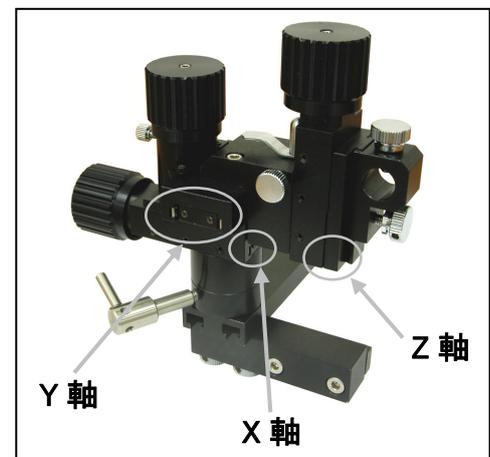
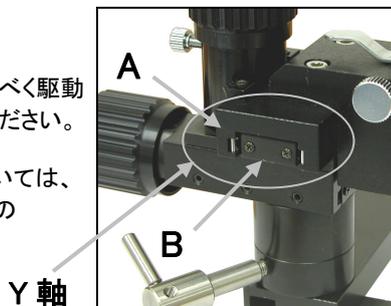
《よくあるトラブルの内容》

手動タイプ(MMN-1、MN-4等)については、駆動範囲最大まで駆動させた場合に、衝撃でハンドル調整が緩み、ハンドル操作感が軽くなってきてしまいます。その状態で何度か繰り返し行なっていると、操作ハンドルの遊びが発生してしまいます。特に、Z軸については、調整が緩みますと、自然落下の原因になり、修理が必要となる場合があります。

《トラブルが起きないためには…》

このようなトラブルを回避する為に、なるべく駆動範囲の中心で操作するように心がけてください。

手動タイプの駆動範囲の見極め方については、外スライダAと内スライダBが面一の状態が駆動範囲の中心の目安です。



粗動マニピュレーター、微動マイクロマニピュレーター全ての各操作ハンドルが駆動範囲の中心にあり、最終的に微動マイクロマニピュレーターにピペットを取り付けた際に、顕微鏡光軸中心にピペットがセットされていることが理想です。

ピペットが顕微鏡光軸中心付近に届くように、粗動マニピュレーター及び取付アダプターの取付位置を調整し、粗動マニピュレーター、微動マイクロマニピュレーターはなるべく駆動範囲の中心のままになるように調整します。

油圧のチューブなどの処理

マイクロマニピュレーターは繊細に調整されているため、油圧のチューブ・電動のケーブルなどで引っ張られている状態だと駆動に微妙な影響を与えてしまいます。もしチューブやケーブルがピンと張った状態になっているようなら、少しゆとりを持って設置するようにしてください。特に電気生理では、ドリフトの原因になったりもしますので、セットアップ時には必ず余裕を持って設置することをお勧めします。

ご不明な点等がございましたら、お気軽に弊社までお問い合わせ下さい。